

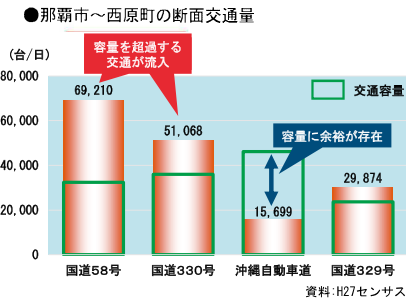
ハシゴ道路の構築

沖縄県における「道路のアンバランスな使われ方」や「那覇都市圏の深刻な交通渋滞」、「東西分断により沖縄自動車道ICへのアクセシビリティの低下」等の交通問題を解消するために『ハシゴ道路』の整備を推進します。

1. 現状と課題

○道路のアンバランスな使われ方

沖縄県を縦貫する幹線道路は、交通容量を超過する交通を処理するのに対して、沖縄自動車道は交通容量に余裕があります。



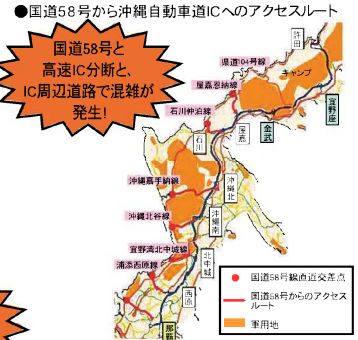
○深刻な交通渋滞

沖縄県の渋滞損失時間は那覇都市圏に集中しています。道路による抜本的な対策が必要です。



○米軍基地による地域分断

基地などによる地域分断から高速道路の利便性が低下しています。新規ICの整備等による高速道路の利用促進が重要です。



道路の計画

2. 『ハシゴ道路』の整備計画

■南北を走る強固な【3本の柱】

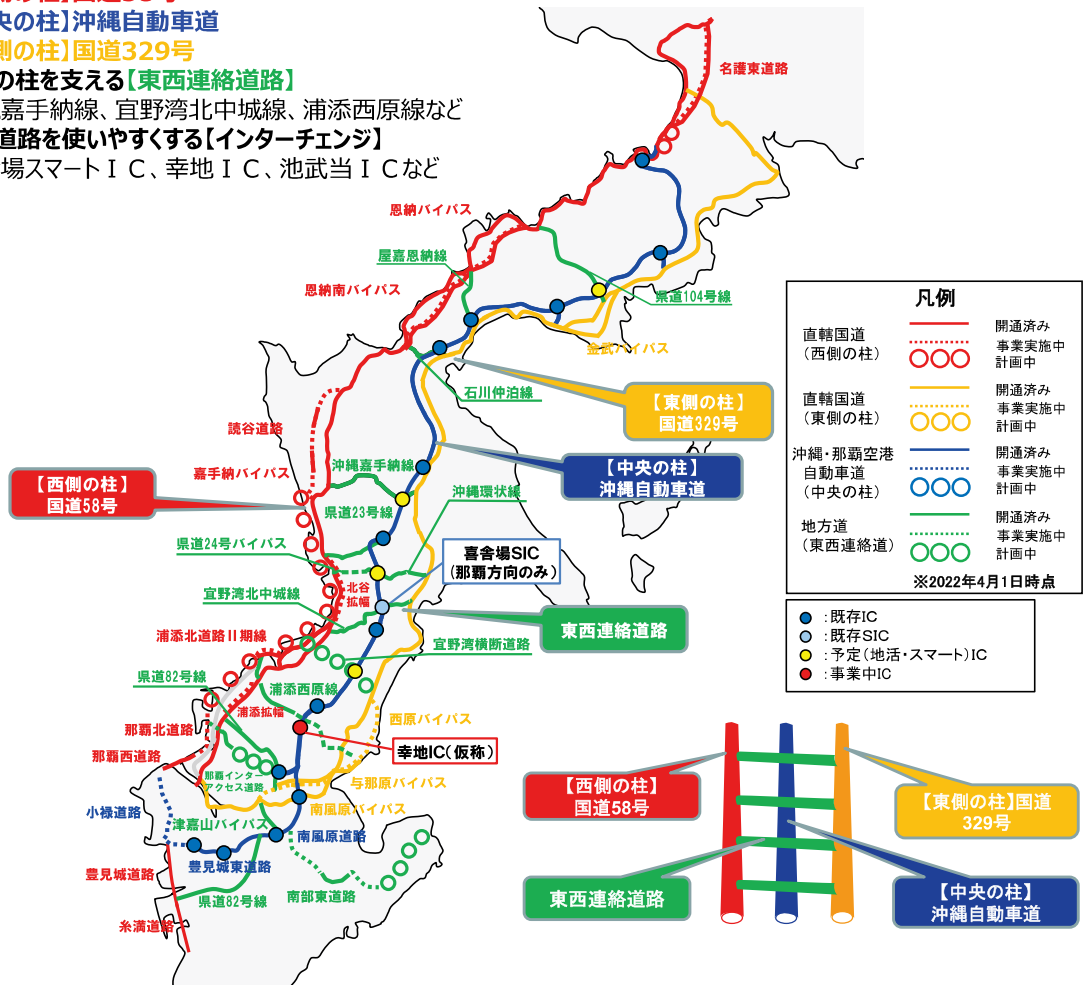
- 【西側の柱】国道58号
- 【中央の柱】沖縄自動車道
- 【東側の柱】国道329号

■3本の柱を支える【東西連絡道路】

沖縄嘉手納線、宜野湾北中城線、浦添西原線など

■高速道路を使いやすくする【インターチェンジ】

喜舎場スマートIC、幸地IC、池武当ICなど



沖縄県道路整備プログラム

(詳細は沖縄県土木建築部道路街路課HP参照)

<https://www.pref.okinawa.jp/site/doboku/dorogai/douroseibiprogram.html>

沖縄県では「沖縄県道路整備プログラム」を2018年12月に策定。

本計画は「沖縄21世紀ビジョン基本計画」及び「沖縄県総合交通体系基本計画」を上位計画とした、沖縄県が取組むべき道路部門の短中期的かつ効果的に道路整備事業を実施するため、道路整備に関わる計画・施策をとりまとめた総合的な計画となっている。

1. 計画の概要

- ・本プログラムの計画期間は2018年度から2027年度までの10年間としており、道路整備の基本方針と対応する具体的な施策のほか、事業効果や主な事業箇所リストについて記載。
- ・対象事業は、ネットワーク整備のみならず、交通安全対策、老朽化対策、市街地開発等、道路に関する全ての事業を網羅しており、道路街路課、道路管理課及び都市計画・モノレール課の道路関係3課により策定した短中期の事業実施計画。

2. 道路整備の基本方針

沖縄県の最上位計画である「沖縄21世紀ビジョン」に掲げる将来像の実現に向け、「沖縄21世紀ビジョン基本計画」や「沖縄県総合交通体系基本計画」に定める施策分野を踏まえ、4方針を定め、各方針を実現するための具体的な施策展開について整理している。

- 方針1: 観光をはじめとする様々な産業の振興を支える道路
 - 体系的な幹線道路網の整備
 - 観光客の受入体制の整備
- 方針2: 災害に強く安全、安心な暮らしを支える道路
 - 交通事故を抑制するための基盤整備
 - 交通基盤の長寿命化
 - 災害に強い道路の整備
- 方針3: 人及び環境に優しく、快適な暮らしを支える道路
 - 歩いて暮らせる環境整備
 - 集約型市街地の形成や地域特性に応じた道路整備
 - 人に優しい交通手段の確保に資する道路整備
 - 自然環境の保全に資する道路整備
- 方針4: 離島地域の生活を支える道路
 - 離島地域内の道路網の整備
 - 災害に強い交通基盤の整備
 - 安全で快適な暮らしを支える道路の整備



道路の計画

3. 整備目標

本プログラムの事業効果を示す成果目標として、右記に示す項目を設定している。

基準年は2017年度とし、目標年は計画期間である10年後の2027年度としている。

4. 主な事業箇所一覧

本プログラムの計画期間は、2027年度までの10年間であるが、主な事業箇所一覧の対象期間は、2018年度から2022年度までの5年間としている。

当該一覧には、方針毎に事業名称、総事業費、今後5年間の事業スケジュール等を示しており、対象は国直轄、県及び市町村の主な事業で、直轄事業については公表済みの情報を、県事業は総事業費5億円以上のみ、市町村事業は総事業費1億円以上のみを記載している。(対象事業については2022年3月更新)

方針	指標	基準年 (2017年度)	目標年 (2027年度)
1 観光をはじめとする様々な産業を支える道路	東西連絡道路の整備率	49%	60%
	主要渋滞箇所数	188箇所	168箇所
	高規格幹線道路の10分圏域人口	653千人	658千人
	空港・港湾の1時間圏域人口	927千人	950千人
2 災害に強く安全、安心な暮らしを支える道路	県管理道路の事故危険箇所対策率 ^{※1}	0%	100%
	県管理道路の橋梁補修・補強箇所数(本島)	-	250橋
	県管理道路の災害防除対策箇所数(本島)	-	45箇所
	無電柱化の整備延長(本島)	120.5km	160.5km
3 人及び環境に優しく、快適な暮らしを支える道路	地域拠点の30分圏域人口	902千人	928千人
	歩道の整備延長	-	15.0km
	土地区画整理による宅地整備面積	2,039ha	2,239ha
	モノレールの1日当たり平均利用客数 ^{※2}	49,716人/日	58,826人/日
4 離島の暮らしを支える道路	県管理道路(離島)の改良率	90.6%	93.5%
	県管理道路の橋梁補修・補強箇所数(離島)	-	100橋
	県管理道路の災害防除対策箇所数(離島)	-	5箇所
	無電柱化の整備延長(離島)	28.4km	48.4km

※1 国土交通省が指定する第4次及び次期社会資本整備重点計画における事故危険箇所を対象とする
 ※2 目標年における利用客数は、2017年度の利用客数に、2030年度における延長事業に伴う利用客数の予測値を上乗せした数値である

表-1 整備目標

1 観光をはじめとする様々な産業を支える道路						
1) 体系的な幹線道路網の整備						
中部	県	路線	長さ	幅員	事業費	供用予定
		〇〇線(〇〇~〇〇)	L=2.9km, W=28m		24,900	2023年度 供用予定
		〇〇線	L=1.0km, W=30m		4,206	2020年度 供用予定
		(都)〇〇線	L=0.7km, W=34.0m		6,000	2020年代後半 供用予定
		〇〇線(仮称)			-	事業化検討

表-2 主な事業箇所一覧(イメージ)

沖縄県の道路 — 道路の予算

道路は県民生活の向上と地域経済の健全な発展に必要な公共施設です。このため、県財政のきびしい状況の中で、選択と集中により、効率的かつ効果的な道路整備につとめています。



ワルミ大橋（屋我地仲宗根線）

令和4年度予算規模(一般会計)

● 県予算 (年度当初) 単位: 百万円

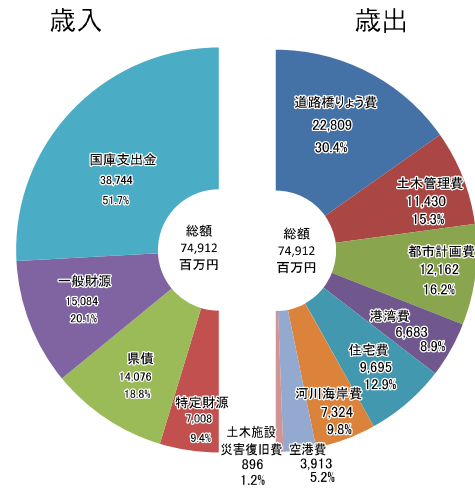
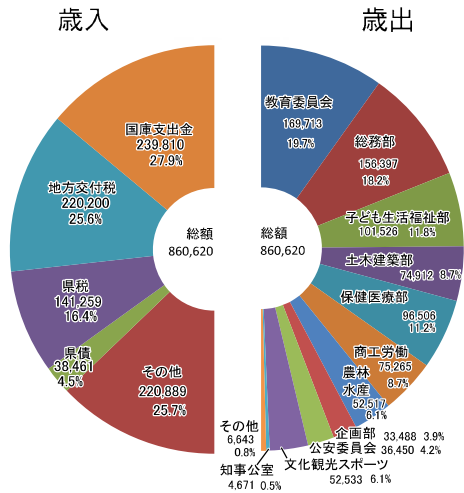
● 土木建築部予算 (年度当初) 単位: 百万円

県 予 算

土木建築部予算

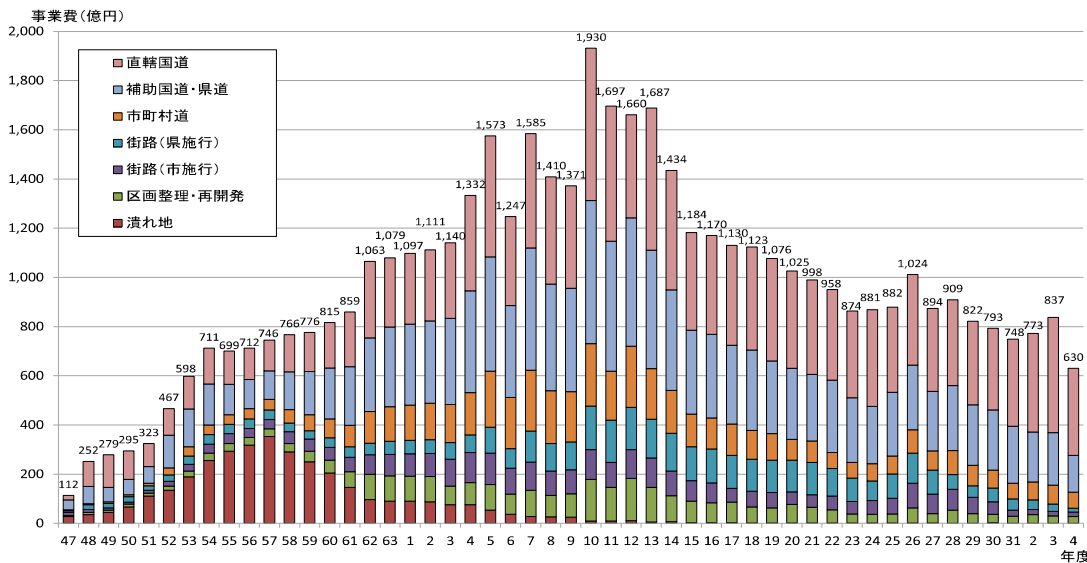
R4年度

R4年度



道路の予算

沖縄県の道路事業費の推移(補正後予算ベース)



注1) 直轄、補助事業は、補正後予算ベース(交付金含み)交通安全・調査・再開発・機械は、各管理者に含む。単独費は含まない。各グラフ上の数字は、各年度の合計である。
注2) 但しR4については当初予算

1. 一般国道 (指定区間)

国(内閣府沖縄総合事務局)が管理する国道は、現在6路線(58号、329号、331号の一部、332号、506号、330号の一部)実延長332.1km(令和4年4月1日現在)で沖縄本島の主要な幹線道路を形成しています。

現在、増大する交通需要に対応するためバイパス等の整備を強力に推進しています。

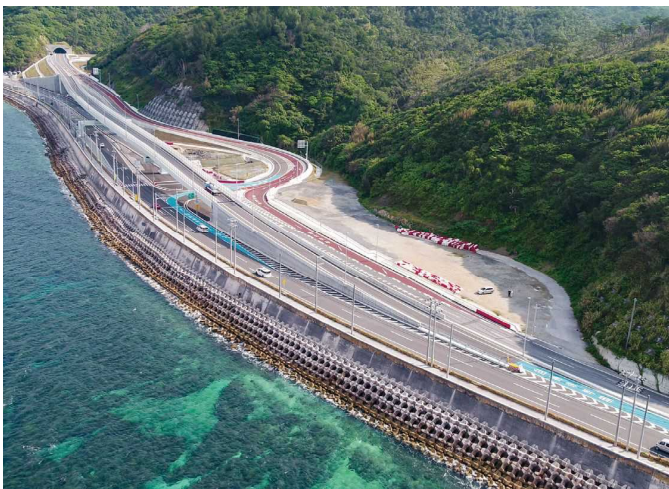
■主な事業箇所

路線名	事業内容
国道58号	名護東道路、恩納バイパス、恩納南バイパス、読谷道路、嘉手納バイパス、北谷拡幅、浦添北道路II期線、浦添拡幅、那覇北道路
国道329号	与那原バイパス、南風原バイパス、西原バイパス
国道506号	豊見城東道路、小禄道路



国道58号 浦添北道路

58 名護東道路



道路規格	1種3級
区間	名護市伊差川～数久田
延長	6,800m
設計速度	80km/h
車線数	暫定2車線(完成4車線)

※名護市数久田～同市許田間(約1.6km)は調査中



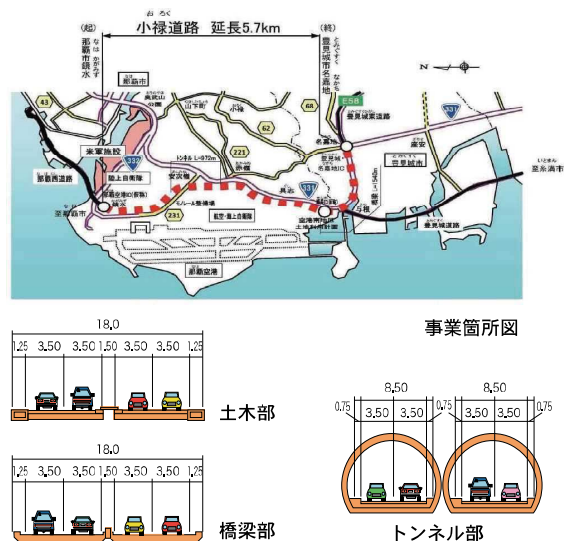
道路の整備

506 小禄道路(那覇空港自動車道)



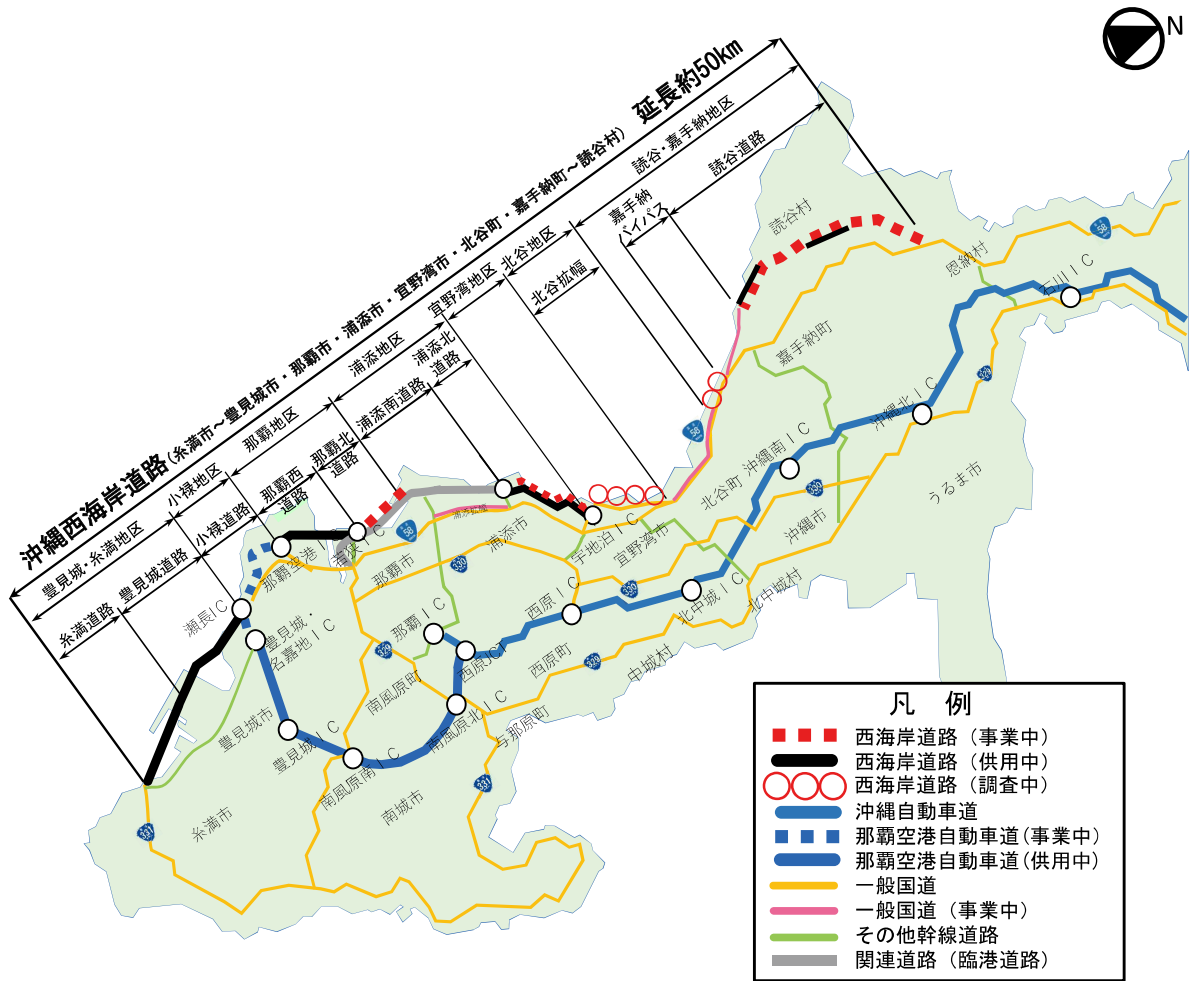
完成イメージ図

道路規格	1種3級
区間	那覇市鏡水～豊見城市名嘉地
延長	5,700m
設計速度	80km/h
車線数	4車線



沖縄西海岸道路

道路の整備



58 那覇北道路(沖縄西海岸道路)



道路規格	1種3級
区 間	那覇市港町～那覇市若狭
延 長	2,200m
設計速度	80km/h
車 線 数	6車線

那覇北道路の道路構造 (橋梁)

